

富山地方気象台長からのご挨拶

富山地方気象台のホームページをご覧ください、ありがとうございます。平成31年4月1日に着任しました台長の常盤実（ときわみのる）です。

富山県内の気象業務は、明治16年（1883年）に創立された伏木測候所が起源となっております。その後、昭和12年（1937年）に中央気象台富山測候所が創立され、昭和32年（1957年）に富山地方気象台と名称を変え、現在に至っております。伏木測候所はその後、特別地域気象観測所となりましたが、富山地方気象台と合わせて136年にわたり観測や予報などの業務を続けてきております。

富山県は、水深1000mを超える富山湾に面し、標高3000m級の立山連峰などの山々に三方を囲まれ、平野部には大きな急流河川が流れています。このように富山県は豊かな自然に恵まれている一方で、過去には大雨による大洪水や浸水害・土砂災害、南風フェーンによる大火、寄り回り波による被害などが発生しております。また、豪雪地帯でもあり大雪となることもあります。

周囲の県ではここ十数年の間に被害を伴う地震が起こっています。県内でも複数の活断層の存在が知られており地震に対する備えも大切です。

自然は私たちに多くの恵みを与えてくれますが、時として大きな災害をもたらすこともあります。富山地方気象台では、日々の天気予報のほかに、「自然災害から身を守るための防災気象情報」を発表しています。地域全体の防災力をよりいっそう向上していくために、県内の防災関係のみなさまと連携するとともに協力をいただきつつ、地域に根ざしたきめ細やかな取り組みを進めてまいります。



平成31年4月

富山地方気象台長 常盤 実